

第1章

下松市の景観特性と課題

1. 下松市の特徴

下松市は、穏やかな瀬戸内海に面し、温暖な気候と中国山地から連なる山々、そこから流れ出る切戸川、末武川は里山をめぐって流域の棚田や水田を潤しています。瀬戸内海は国立公園に指定され、笠戸大橋で結ばれた笠戸島は瀬戸内海の多島美景観をなし、景勝地として多くの市民に親しまれています。

歴史的にも、古くからの人々の営みがうかがえる縄文・弥生時代の遺跡、宮原古墳などの史跡が残されています。また、関西と九州を結ぶ交通の要所であったことから、古代、中世、近世にかけて旧山陽道がはしり、花岡、久保には宿場町の面影も残されています。

臨海部には、我が国の技術立国を支える大規模工場が工場群の景観を形成しています。下松市の中心市街地として機能し、全市的な都市活動の拠り所となるシンボルライン地区の一つであるJR下松駅周辺では、下松市の玄関口として、駅前広場や市街地再開発事業、商店街の整備による活気のある景観が形成され、一方、中央線や末武大通線、青木線では賑わいのある沿道型商業地の景観が形成されています。

このように豊かな自然環境等、古くから地域が持ち得てきた景観と発展を続ける市街地の景観が両立した、多様性を持つ景観を下松市では見ることができます。

「豊かな自然に囲まれた活気あふれるまちの姿」が、下松市の特徴です。



2. 下松市の景観特性と課題

下松市において「景観」は、実際に目に見える色や形だけでなく、地域の歴史や文化から生まれる雰囲気など、五感を通して感じることができるすべてを指します。そして、長い年月をかけて育まれてきた美しい景観は、地域のかげがえのない財産となっています。

下松市の景観を、地域の風土の基盤をなす「自然の景観」、風土に対応して築かれてきた「歴史文化の景観」、人々の暮らしとともに育まれてきた「生活の景観（街と里）」の3つの観点から捉えます。



下松市の景観を捉える3つの観点

2-1. 自然の景観

●中国山地から連なる山々と溪流の景観

- ・中国山地から連なる山々は稜線をなし、市街地や笠戸島からも望むことができる緑のスクリーンとなっています。豊かな森林から流れ出る清水は溪流となって山々を削り、緑と水が織りなす美しい景観となっています。

●川とダム湖の景観

- ・中国山地から流れ出す溪流は、切戸川、末武川となって、上流から中流、下流、そして河口へと流れの速さや地形、土地利用の変化を川面に映す繋がりのある川の景観をなしています。
- ・温見ダム、末武川ダム（米泉湖）は、山々の緑を湖面に映し、山地にありながら広がりのある景観をなしています。

●笠戸島とそれを取り巻く海の自然豊かな景観

- ・笠戸島は入り江と岬が織りなす変化に富んだ海岸線がみられ、穏やかな瀬戸内海と笠戸島をはじめとする島々が瀬戸内海の多島美景観をなしています。



山々と溪流



霧の立つ温見ダムの湖面



瀬戸内海の多島美景観

【課題】

- 山の緑と溪流の景観を守ることが望まれます。
- 山や海の自然景観を楽しむ道路の眺望を確保するために除草など適切な管理が望まれます。
- アンケート調査では山や川、海等の風景が重要とされている一方で、ゴミの放置が指摘されています。景観とあわせた環境への配慮が必要です。



道路からの眺望を確保するための適切な管理



景観を阻害するゴミ

2-2. 歴史文化の景観

●旧山陽道の歴史を感じさせる景観

- ・旧山陽道の宿場町であった花岡や久保には当時の面影を残す建造物が残されています。
- ・花岡には花岡八幡宮、あかいぼうたほうとう 関伽井坊多宝塔など歴史を物語る貴重な文化財が多く残され、歴史的な景観を形成しています。

●神社仏閣の景観

- ・わしず 鷲頭山にはくだまつ 降松神社の上宮、中宮があり、鷲頭山を眺望する麓には降松神社若宮があります。参道や社には古くから信仰の対象とされてきた歴史的景観が形成されています。
- ・地域で大切にされてきた寺院や神社、鎮守の森、道祖神など永い歴史を映し出す歴史文化の景観資源が随所にあります。

●まつりや伝統文化の景観

- ・切山では江戸時代から続く切山歌舞伎が传承されています。
- ・花岡の稲穂祭（きつねの嫁入り）では、きつねに扮した嫁入り行列が旧山陽道を練り歩きます。



旧山陽道に面した酒造所



切山歌舞伎



旧山陽道を練り歩く
きつねの嫁入り行列

【課題】

- 旧山陽道沿いの面影を守り、伝えていくことが望まれます。
- 切山歌舞伎などの伝統芸能は途絶えてしまうことのないように、文化の传承のための後継者の育成を行うことが望まれます。
- 地域に残された歴史的景観の価値を見直し、それらの保存と活用を考え未来に繋げていくことが望まれます。



石畳の参道



灯明台

2-3. 生活の景観（街と里）

●緑豊かな里山景観

- ・末武川上流米川地域及び切戸川上流域は、中国山地の中にあつて棚田が点在し、緑豊かな里山景観を見せています。

●まちなみの景観

- ・シンボルラインを構成する末武大通線、中央線沿道は大規模店舗や商業施設が多く立地し、沿道型商業地の景観を形成しています。
- ・JR下松駅南地区は市街地再開発事業が完了し、都市計画道路の整備や無電柱化等が行われました。また、JR下松駅北地区もマンション等の住宅が増加するなど、住宅と商業機能等の調和のとれた景観が形成されています。

●ゆとりのある住宅地の景観

- ・中部土地区画整理事業などで道路や公園が計画的に整備されるとともに、市街化区域全域で秩序ある開発や土地利用が行われ、ゆとりのある住宅地の景観が形成されています。

●活力あふれる工場の景観

- ・臨海部は我が国数の高い技術力を持つ大規模な工場が立地し、生産の場として活力あふれる工場地の景観を形成しています。



棚田の景観



元町商店街



ゆとりのある住宅地の景観



工場地の景観

【課題】

- 「下松市都市計画マスタープラン」や都市計画法等の各種法令に基づいた、計画的な土地利用の規制・誘導が望まれます。
- 緑豊かな里山景観は、過疎化と高齢化により耕作放棄地が増加し、里山景観の喪失が懸念されます。
- アンケート調査では、特に景観を損ねているものとして、管理されていない空き家や空き地が指摘されています。また、公園や緑地の景観の重要度が高くなっています。

第1章 下松市の景観特性と課題

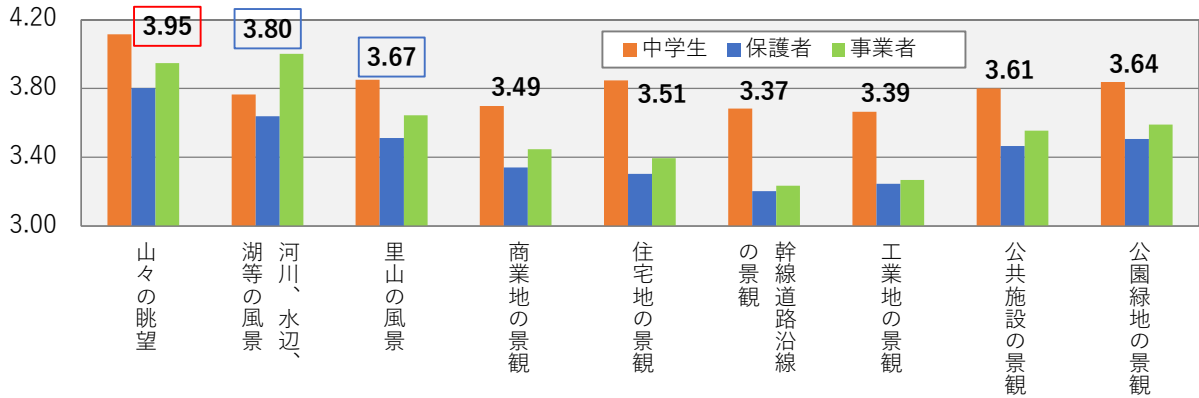
【参考】下松市の景観まちづくりに関するアンケートから

※市内の「中学2年生」「小学4年生の保護者」「景観行為届出のある事業者」の3種別を対象に実施
 ※グラフ上の数値は、3種別ごとの集計値の平均を表す

現在の下松市の景観についての評価

(項目ごとに5段階評価)

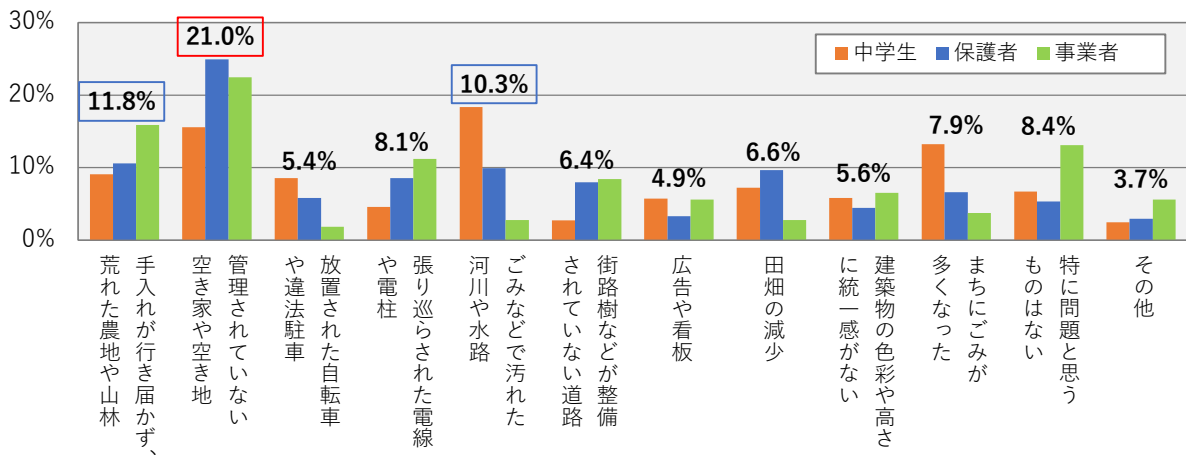
○「山々の眺望」の評価が最も高く、次いで「河川、水辺、湖等の風景」「里山の風景」が高くなっています。



下松市全体で景観を損ねていると思うもの

(該当するものを3つ以内で選択)

○「管理されていない空き家や空き地」が最も多く、次いで「手入れが行き届かず、荒れた農地や山林」「ごみなどで汚れた河川や水路」が多くなっています。



これからの景観を考える上で、重要度が高いと思うもの

(項目ごとに5段階評価)

○「公園緑地の景観」が最も高く、次いで「河川、水辺、湖等の風景」「公共施設の景観」が高くなっています。

